

3.

表 8-4 ダウン症の比率（アメリカ、イリノイ州、出生 10 万対）
（5000 人～1万人の町：1950. 1. 1～1956. 12. 31）

出生数	フッ素濃度 (mg/L)	ダウン症患者 人数	ダウン症患者 率 (10 万対)	フッ素濃度 0～0.2 群 に対するオッズ比 ※ (95%信頼区間)
25,248	0.0-0.2	10	39.60	1
24,364	0.3-2.6	19	77.98	1.97(0.92- 4.24)

$\chi^2 = 11.53$ $p < 0.001$ ※EBMビジランス研究所で追加したもの

上記表 8-4 中、脚注部分を以下のように訂正します。

表 8-4 ダウン症の比率（アメリカ、イリノイ州、出生 10 万対）
（5000 人～1万人の町：1950. 1. 1～1956. 12. 31）

出生数	フッ素濃度 (mg/L)	ダウン症患者 人数	ダウン症患者 率 (10 万対)	フッ素濃度 0～0.2 群 に対するオッズ比 ※ (95%信頼区間)
25,248	0.0-0.2	10	39.60	1
24,364	0.3-2.6	19	77.98	1.97(0.92- 4.24)

$\chi^2 = 3.12$ $0.05 < p < 0.1$ ※医薬ビジランス研究所で追加したもの

なお、「EBMビジランス研究所」は、現在、「医薬ビジランス研究所」と改称しておりますので、お知らせ申し上げます。

また、この報告書の内容のうち、がんとの関連に関する疫学調査結果のデータ（Hoover 論文データ）をより詳細に検討し直し、全体の文章量を約4分の1の長さに要約したものを、医薬品・治療研究会が発行する医師薬剤向け情報誌、「正しい治療と薬の情報」（TIP誌）2002年8/9月合併号に掲載しました。また、さらに要約した内容を「薬のチェックは命のチェック」No8（10月20日発売予定）に掲載しました。どちらも全文を近日中に、NPOJIP「医薬ビジランスセンター」のホームページ <http://npojip.org> に掲載します。あわせてご覧ください。

2002年10月11日

医薬ビジランス研究所 所長 濱 六郎